



YMCA NEWS

12

2025年12月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区段山本町4-1
Tel 096-353-6397(代)

つながる想い、広がる未来

「こども・若者・国際協力」をテーマに取り組むYMCA年末募金。その使途には経済的理由によりYMCAのプログラムへの参加が難しい子どもたちに対して、費用の一部を減免するBAPY基金(BE A PARTNER OF THE YOUTH)や、熊本YMCA学院への進学をサポートする特別奨学生制度が含まれています。これらを用いて様々な経験をし、今年度から夢に向かって新たな一步を歩み始めた二人にお話を伺いました。

YMCAで見つけた“好き”が、私の未来をひらいてくれた

YMCA英会話スクール元在籍生
西口 夏海さん



私は高校生の頃まで、BAPY基金を利用してYMCAの英会話スクールに通っていました。高校卒業後は大学の英米学科に進学してオーストラリアへの留学も経験。大学を卒業し、今年の4月から熊本市内のIT企業で仕事をしています。

YMCAとの出会いは体育英語幼稚園(現ぶどうの木体育英語幼稚園)。幼い頃から園で楽しく英語にふれ、卒園後も英会話を続けました。高校時代には英語を学ぶ中高生が全国のYMCAから集まる「English Camp for Global Leadership(ECGL)」や世界のユースが共に平和について考える「広島YMCAインターナショナル・ユースピースセミナー」にも参加。県外にも友だちができて、今でも連絡を取り合ったり、会いに行ったりしています。この二つのプログラムも募金による参加費補助があったので参加することができました。また、子どもたちの英語プログラムにユースリーダーとして参加してサポートしたり、YMCAでいろいろな人と関わった経験がコミュニケーション力につながり、社会人となった今も役立っています。

就職活動の際に今の会社を選んだ理由の一つは海外事業部があるということ。社内に「グローバルコミュニティ」という活動があり、英語に興味のある社員や海外に赴任している社員とオンラインで交流しています。将来は海外で仕事をしたいです。留学を通して日本のすばらしさ、暮らしやすさを実感しました。だからこそ、荒波にもまれる気持ちで挑戦して、自分の視野を広げたいと思っています。

募金による支援があったから、YMCAで様々なチャレンジができる、今の自分があります。YMCAで自分の好きなことを見つけて本当によかったです。



こども英語キャンプにリーダーとして参加する高校生時代の西口さん



誰かの支えが私の力に YMCAで見つけた学びと一歩

熊本YMCA学院 こども保育科 2025年3月卒業生
松永 彩伽さん



私は中学3年の頃から母と二人暮らしでした。進学について考えていた時に高校の先生から「YMCA学院のこども保育科はいいところだよ」「YMCAなら特別奨学生という制度があるよ」と教えていただいて入学を決めました。

学生生活で思い出に残っているのはボニーキャンプです。リーダーとして、熊本県立盲学校の子どもたちと一緒に泊2日のキャンプをするというのはYMCA学院ならではの経験だと思います。目が見えない子どもをサポートするので、手を引いたり、「段差があるよ」と些細なことも声掛けが必要だったり、最初はたまへんでした。でも、子どもたちがリーダーといっしょに楽しそうに笑っている姿を見て「参加してよかった」と心から思いました。

こども保育科3年生のみんなで取り組んだ卒業発表会では、私が祖母からもらった絵本を劇の題材にすることが決まりました。「自分が選んだ本だからがんばろう」と思ったけれど、うまくいかないこともあります。そんな中、クラスのみんながアドバイスをくれて、協力して形にすることができて、こんな経験は二度とないだろうと感じました。



卒業発表会で劇をする松永さんたち

YMCA学院を卒業し、今年の4月から熊本市京町の保育園に勤務しています。初めは2歳児のクラスを担当していました。子どもの成長ってこんなに早いんだなと毎日発見することが多くて楽しいです。

たくさんの募金があったから保育士になることができました。この奨学生制度を知らない高校生もいると思うので、広く伝わってほしいです。

今は、0歳児クラスの補助に入っています。目標は、もっといろいろなことを学んで主の担任になること。優しいのはもちろん、子どもたちの細かいことに気を配れるような先生になりたいです。

2面に続く

Pickup

子ども英会話スクール
ハロウィンパーティー



第57回前進祭
オープニングの
新町獅子舞

耶馬渓ファミリー
サイクリングツアー2025



YMCA年末募金

子どもと若者たちに学びと成長の機会を

環境に左右されない挑戦の場をつくるために

厚生労働省「国民生活基礎調査 2021」によると、日本の子どもの相対的貧困率は11.5%、ひとり親世帯では44.5%が同じ状況にあると報告がなされています。その他の場合にも家庭の状況や環境の違いから、「習いごとに参加したいけれど難しい」「進路や就職に不安がある」など、学びや体験の機会を得にくくなることがあると言われています。熊本YMCAでは募金を通して、子どもや若者たちのプログラム参加や進学を応援しています。

平和をつくる地球市民育成をめざして

広島YMCAインターナショナルユースピースセミナー、English Camp for Global Leadership (ECGL) など、ユースを対象とした各種研修や学びの機会の参加費を補助し、次世代を担う若者の成長を応援しています。

また、熊本YMCA学院の学生や地域の学生の語学スクールの参加費を補助しています。

熊本YMCAの助成実績(2022年度～2024年度)

※各年度のべ人数・件数合計

BAPY基金

(子どもたちのYMCAプログラム参加費助成)
スポーツスクール・英会話スクール・キャンプなど

通年
プログラム▶ **121名** シーズン
プログラム▶ **17名**

熊本YMCA学院の特別奨学生・
留学生進学支援など

33名

地球市民育成(研修参加費助成)

10件

学生への語学スクール参加費補助

熊本YMCA学院の学生・地域の学生

60名

YMCA年末募金
中間報告

YMCAでは「子ども、若者、国際協力」をテーマに募金活動に取り組んでいます。11月15日(土)時点で、1,289,690円の尊いご協力をいただいています。引き続き皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。

Webサイトではクレジットカード決済での募金も可能です。

YMCA年末募金▶



Information

熊本バンド結盟150周年記念行事



熊本洋学校で教師ジェーンズの薰陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教えを日本全国に宣布しようと結盟し、その後「熊本バンド」と呼ばれた青年たち。日本におけるキリスト教プロテstantの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟150周年を記念して、早天祈祷会と特別講演会を開催します。

早天祈祷会

日 2026年1月30日(金)6:30～7:30(※雨天決行)

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

奨励 同志社搖籃期と熊本バンド

奨励者 学校法人同志社総長・理事長 八田英二さん

※早天祈祷会の模様はYouTubeでLIVE配信します。

LIVE配信・献金方法の詳細は、熊本YMCAのWebページでご確認ください。

※前週の1月24日(土)には、花岡山の清掃活動が行われます。

併せてご参加ください。



特別講演会

日 2026年3月20日(金)14:00～19:00

場 熊本草葉町教会(熊本市中央区草葉町1-15)

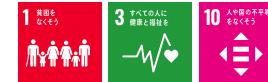
内 第1部 講演会(14:00～16:30) 第2部 茶話会(17:00～19:00)

講演者 小崎眞さん、岩井善太さん 費 講演会 無料、茶話会 2,000円

催 熊本バンド結盟150周年記念行事実行委員会

共催 学校法人同志社

問 実行委員会事務局(熊本YMCA) Tel 096-353-6397



フェアトレード推進

企業と企業人の社会貢献に取り組む「YMCAフィランソロピー協会」は発展途上国の生産者をサポートする「フェアトレード」の推進に取り組んでいます。今年もクリスマス、バレンタインの時期に合わせて、チョコレートなどのフェアトレード製品の販売を行います。チョコレートは有機栽培に力を入れている生産者団体が育てたカカオ豆を使用しています。心を込めてつくられた農作物を、ふさわしい値段で買い取り、生産者や労働者の日々の生活を支え、健康や環境を守り、教育支援などのサポートをしています。

日 2026年2月頃まで 場 熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンター(熊本市中央区段山本町4-1)

問 YMCAフィランソロピー協会事務局 Tel 096-353-6397



日時 場会場 内容 費参加費 定定員 条参加条件 持持ち物 対対象 催主催 締締切 申申込 問問合せ 他その他

R | E | P | O | R | T

ユース 学びの場と共に



なごみねファミリーセンター
松野利美

10月11日(土)～10月13日(月)の3日間、徳島県のYMCA阿南国際海洋センターで開催された第56回全国YMCAリーダー研修会にユースリーダー3名と参加しました。今回の研修のテーマは「Set Sail～心に帆を揚げて～」。全国から約90名のリーダーが集い、それぞれが未来へ向けて新たな一歩を踏み出す機会となりました。

全国YMCAリーダー研修会に参加



「Well-being(=幸せな状態が維持されていること)」をキーワードに、よりよく生きるために何が必要かを考え、グループワークなどを通して理解を深めました。活動の中で、リーダー一人ひとりが自分を見つめ直し仲間と共に成長する姿が印象的でした。また、笑顔で積極的に学び合う姿勢に、大きな成長と可能性を感じました。今回の研修で得た学びやつながりを大切に、それぞれが自分の「帆」を揚げ、地域やYMCAで新たな風を起こし未来へ力強く進んでいくことを心から期待しています。



国際 熊本と韓国大邱YMCAが交流 役員協議会



むさしグローバルコミュニティセンター
辻健太郎

韓国大邱YMCAと熊本YMCAの交流は1960年代の高校生交流から始まり、現在も職員研修やユース・役員による交流を続けています。今年で31回となる役員協議会は10月25日(土)、韓国大邱YMCAで開催され、熊本からは4名が参加しました。

協議テーマは「日韓ユースボランティア活動交流の活性化」で、熊本から総主事の伊藤眞太郎さんが



発題。ユースを対象に8月15日(日本では終戦記念日で韓国では独立記念日)を含む前後の日程での交流プログラムの実施を提案。相互に違いを受けとめ、平和について考える出発点を見つける。それをきっかけに国際的なボランティア実践をし、平和な世界の実現に貢献する次世代リーダーへと成長するビジョンを示しました。

大邱からの発題もなされ、分団討議、意見交換を行いました。今後協議を重ね、両YMCAが連携・協力して実現しようとすることが確認されました。



祭り 地域との共働



東部グローバルコミュニティプラザ
下田大雅

熊本YMCAでは、各拠点でYMCA祭を開催し、益金をYMCA年末募金や地域活動に用いています。11月9日(日)には熊本YMCA東部グローバルコミュニティプラザで「東部わいわい祭～帯西とYMCAでつながる地域の輪!～」を開催しました。今年は5年ぶりに帯山西小学校校区の「帯西まつり」と同日開催となり、地域全体が一体となってにぎわいました。

東部わいわい祭



雨天にもかかわらず300名を超える来場があり、会場は終日活気に包まれました。

フランクフルトやだご汁などの食バザー、eスポーツ体験やけん玉講習会、こびと探しなどの企画が行われ、子どもたちの笑顔があふれました。ステージではダンスやコンサートが披露され、最後にはお楽しみ抽選会も実施。地域住民と学生、スタッフが協力し合い、つながりを深める温かな時間となりました。東部グローバルコミュニティプラザは、今後も地域とともに歩み、笑顔の輪を広げていきます。



東京タワー

先日、母校の高校を訪ねました。東京での用事を終えた帰り道、ふと立ち寄ってみようと思ったのです。担任の先生にお会いするのは、卒業式以来。時を超えての再会でした。高校で引っ越しをし、小中の友人と離れ、大学は県外へ。社会人になってからは転勤で熊本へ。そのため、母校を訪ねるのは初めてでした。

駅を出ても、景色がすっかり変わっていて、か

つて通った通学路の面影はほとんど残っていませんでした。道も思い出せず、スマホの地図を頼りに歩きました。それでも校舎が見えた瞬間、胸の奥が少しづつわいたのを覚えています。

事務室で先生を尋ねると、「いらっしゃいますよ」との返事。ほどなくして、懐かしい声が響きました。「お～、久しぶり」その一言で、時が一気に巻き戻るようでした。驚いたのは、当時の出来事を細かく覚えておられたことです。私は忘れていたのに、先生の言葉が眠っていた記憶をそっと起こしていました。道も忘れ、記憶も薄れていたのに、人とのつながりが、時間を超えてあの日の自分に再び会わせてくれる。不思議なあたたかさを感じました。話しながら、あ

の頃の全く模範的ではなかった自分を思い出し、どこか恥ずかしさと、ほんの少しの申し訳なさが入り混じった気持ちになりました。先生は変わらぬ笑顔で、「今度はゆっくりお酒でも飲みながら」と言ってくださいました。その言葉に、胸の中がじんわりと温かくなりました。

駅へ向かう帰り道、変わらぬ東京タワー、プリンスホテル、増上寺の景色を眺めながら歩きました。あの日とは違う風景のようでいて、どこか同じ温もりがありました。

新たな思い出とともに、東京を後にし、家族の待つ現在へ。過ぎゆく時間の中で、人の出会いが今の自分を形づくっていることを、改めて感じた一日でした。

